

長井工業高（宮野悦夫校長）は地元の製造業者を講師に招いた品質管理（QC）講座を開催し、来年3月のQC検定（日本規格協会など主催）受験を目指す生徒らが熱心に受講した。産学連携の教育として定着しており、「ものづくりのまち長井」を支える人材の輩出にも貢献している。

# 企業と連携 QC講座

品質管理

三協製作所山形工場の社員の説明を受け、品質管理について学ぶ2年生 =長井工業高

アルミニウム加工業「三協製作所」（東京都）の山形工場（長井市）社員が外部講師となり、6年前から実施。ことしは11月26日に開き、機械システム科の2年生37人が受講した。

品質管理は製品向上やコスト削減に直結し、レベルが上がれば産業界全体の底上げが図れる。社会人や学生がその知識、応用力を試すのがQC検定で、高校生が早期に資格を取得すれば就職にもプラスに作用するし、製造業担い手の拡大にもつながる。生徒がQCに関心を持つ機会をつくりたいという同校と同社の思惑が一致し、連携している。

## 長井工高 講師は地元製造業者

聴き、必須の統計処理や、ヒストグラム（データのばらつきを調べるグラフ）を用いた問題点の導き方についても教わった。生徒から「分かりやすかった」「受検への意欲が湧いてきた」といった声が聞かれた。

検定は年2回あり、近年同校生徒は3月に毎回60人以上が受検。3、4級で多くの資格取得者を出している。機械システム科長の高橋啓教諭（36）は「講座を受け、自主的に勉強に取り組む生徒も目立つ。今後も協力を受け継続して取り組んでいきたい」と話している。



検定へ意欲、人材育成にも

講座では資格取得の優位性、試験問題傾向などを